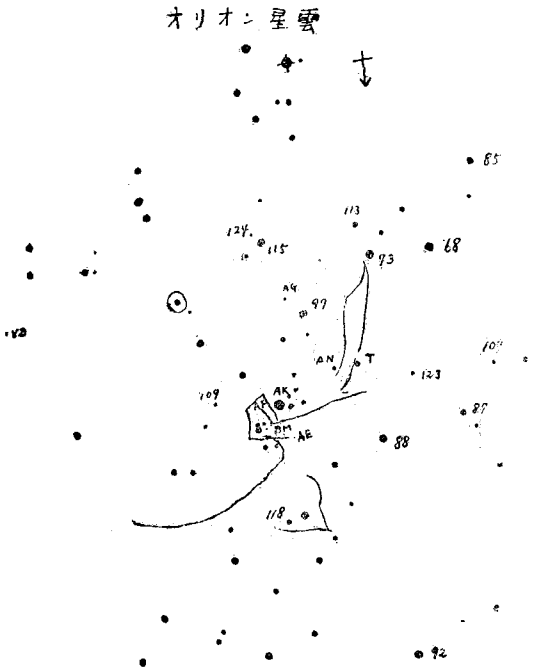
10.8等の星は3吋で普通の夜に見えるが11.3等は可なり困難である。両星とも變光星と考へられて居る。

此の星雲の内外には甚だ變光星が多い何れも淡いものばかりであつてハーヴアード天文臺及びウオルフ氏の發見である。其の内でも Tは1863年 Bond の發見した不規則星 ある。圖はホフメイスター及びハーゲン兩氏の原圖に基いて書いたもので光度はハーヴアード光度表よりとつた。

A N はハーヴアード表には11.4等とされて居るがハルイウイヒの表には10.3—11.0等まで變光するが種類不明である。圖で BM は四重星の左下. 右下は誤.

星名	變光寫眞光度	種類
AK	10.7等—11.3等	不明
AF	11.9—16.1	同
AE	12.6—13.3	同
AG	12.9—14.0	同
VZ	——	—



古き新星の最近狀況

古き新星の光度觀測は新星研究上重要なものであるが少數なる觀測が得られるのみにて一般に等閑視されて居る。

英のスチーブンソンW. H. Steavenson（六吋レイ望遠鏡）氏ヤーキース天文臺のバーナード氏（四十吋）A A V S O 會員等の觀測が主要なるものである。スチーブンソレ氏の觀測を主要なるものとして記す。

○1866年北冠座新星

9.4等の光度を保持す。

1848年蛇遣座新星

1922年中11.9 乃至 12.7 等の間に稍々週期的に變光す 1918年鷲座新星1922年中は殆んど變化せず10.1 等なれど 1923年に10.4等近くまで落下せり。可なり著しき星雲狀星像を有する爲觀測は多少不一致なり。2吋にて觀測可能。

○1919年蛇遣座新星

AAVSO 會員の觀測によれば1922年中12.0等より12.8等まで下降す。

○1920年白鳥座新星

1922年中10.0等より11.2等まで漸次に下降し1923年10月には 11.5 等なり。星像星雲狀なる爲に光度決定には著しき困難を感じ著しく不一致なり。3吋にて觀測可能。

○1876年白鳥座新星

光度約 14.7 等にて6吋にては最良の夜に於てのみ認め得。變光は僅かに0.3等以内にてターナー教授は41.5日の週期を與ふ。

○1910年トカゲ座新星

認め得べき變化なく14.1等なり

○1901年ペルセウス座新星

12.2 等り14.1 等の間に著しき變光をなし星像は僅かに73倍にて著しき星雲狀の外觀を有し觀測多少困難なり7吋にて容易に觀測さる。

訂　正

一月號天界口繪のクロツスレー反射望遠鏡の説明中36吋鏡はカルバーの製作なりと記せるがキーラー氏の原文には It Was made by Mr. Calver と記し其後 Campbell 氏により天體物理學雜誌1902年號によりて訂正さる。

反射鏡面が不完全なりし爲有名なるグラツブ氏 Sir Howard Grubb をして再度拋物線面に磨かしめたる故グラツブ氏の製作と同樣なりと。又鏡面は甚だ完全にしてフーコーの鏡の試驗によれば鏡面は甚だ良好なり。以上の理由により訂正す。